



宇都宮市管工事業協同組合が給水に出發



白沢浄水場で宇都宮市職員が充水

日本水道協会県支部

初の合同防災訓練 災害備え情報伝達や給水活動

日本水道協会県支部の初めての合同防災訓練が、26・27日の2日間開催された。26日には県内各所で情報伝達・応援要請訓練を、27日には宇都宮市で応援隊参集・受入・応急給水活動差配・給水車進行、応急給水の訓練を実施。各事業体の給水車が給水活動を行って、大規模災害発生時の応急対応に備えた。

日本水道協会では2020年4月に、地震等緊急時対応の手引きを改訂。この中で支部長の役割が拡大され、各支部で相互応援体制の整備を行うとされた。

同協会県支部は、県内の各自治体の水道部・水道課や上下水道局、県企業局などで構成する。災害時における各都県支部長の果たすべき役割の拡大とともに、近年頻発する大規模自然災害に備え、迅速な情報連絡体制の確立や各事業体における円滑な相互応援体制を強化するため、初の試みとして県支部内の全事業体に参加する合同防災訓練を開催した。

今回は、26日午前9時に地震が発生して宇都宮市で震度5強を観測し、県・宇都宮市・宇都宮市上下水道局が災害対策本部を設置したという設定で訓練を行った。

1日目の26日は、県支部全会員(26事業体)の各事務所へ情報伝達・応援要請訓練を実施。宇都宮市以外の県内地域で被害はなかったものの、宇都宮市の松田配水区・白沢配水区・今里配水区の配水管の一部が破損し、市内複数地区で断水が発生したことを確認した。

これを受け、2日目の27日には応援隊参集・受入、応急給水活動差配・給水車進行、応急給水の訓練を実施し、14事業体(給水車15台)のほか宇都宮市と災害協定を結んでいる宇都宮市管工事業協同組合も給水車1台を用意して参加した。

県内各所から応援隊が宇都宮市の白沢浄水場に駆け付け、宇都宮市の職員が順次給水車へ充水。充水された給水車は上河内地区市民センター、河内地区市民センター、田原コミュニティプラザの3カ所へ進行し、到着先でポリタンクに緊急給水した。その後、給水車は白沢浄水場に戻り、今回の訓練で気づいた点や課題などを報告。報告内容は取りまとめ、会員と共有し今後の訓練や災害対応に生かしていく。

宇都宮市上下水道局の吉澤企業総務課長は「全国各地で災害が発生しており、県内の危機管理体制の整備が重要となってきた。今回はスムーズに訓練が実施できたが、今後も緊急時に備え、継続的に訓練を行っていききたい」と講評した。

宇都宮市では今後、同様の訓練を県内各所で実施したいとしている。

宇都宮市管工事業協同組合は給水車を所有していたことから、災害協定締結先の宇都宮市から訓練参加の要請を受けた。

災害発生時に早急に緊急対応することで地元へ貢献したい思いもあり、今回の訓練に参加したという。

同組合は以前から市の防災訓練に参加していたが、今回の訓練は「万が一の場合にもスムーズに対応できる体制が整えられ、非常に有意義なもの」と評価。今後も同組合は、同様の機会があれば参加し、地元へ貢献していきたいとしている。